

柳川春葉 しゅうがはるは 小説家。明治十年二月五日東京生れ、大正七年一月

九日歿（二八七七一九二八）。本名尊之 うんげん。筆名やたけぎ生、千紫、千紫樓。春

葉山人、春葉生、柳川子等。尾崎紅葉の入門。明治二十一年春陽堂の

入り、雑誌『新小説』の編輯に従事。一方、家庭小説の代表的作家の

一人と為る。

著譯書、紅葉山人口授『春陽文庫・第六編（西洋娘形氣）』（筆記、

明治二十年十一月、二十日春陽堂）、『夢の夢』（明治二十四年九月、一

十五日春陽堂）、『汽車の放』（明治二十五年二月十八日春陽堂）、

『酒中花』（明治二十五年六月十日新聲社「アカツキ」）、饗庭篁村
紅葉山人

著『心う雀 いんずく（西洋娘形氣）』（筆記、明治二十五年六月十二日春陽

堂）、『花がすみ』（合著・山川直信編、明治二十五年九月十五日文

錦堂）、『山櫻』（明治二十七年一月二十日青木崙山堂）、『アレキサ

ンドル』二冊著『セジメトポール』（内田
春雄
原中花浪共譯、明治二十七年八月

二十五日國民書院）、『ハタカ川』（明治二十八年四月十七日春陽

堂）、『母の心』（明治二十八年八月二十日春陽堂）、『治客』（明

治二十八年十月二十六日春陽堂）、『縁の糸』（明治二十九年一月一

日金尾文淵堂）、『やど木』（明治二十九年一月一日春陽堂）、『浮

沈』全二冊（前編・明治二十九年二月二十五日、後編・六月二日隆文

館）、『心の影』（明治四十年四月二十日今古堂書店）、『富と愛』全

二冊（前編・明治四十年四月二十一日、後編・五月十七日隆文社）、

『後の世・後篇』（明治四十年五月十日春陽堂）、『春葉集』（明治

四十年七月十二日今古堂）、『美人のあはれ』（風葉
一人合著、
秋聲明治四十

年十一月五日出版雑誌）、『雪子夫人』（明治四十一年一月十五日今

千石堂書店)、徳富蘆花原著「脚不始歸」(脚色、明治四十一年一月)
白今古堂書店)、「標」(明治四十一年一月七日今古堂書店)、
「アセン全集(巻り一)」(佐藤紅綠共譯、明治四十一年一月五日杉本
梁江堂)、
「獨力」(明治四十四年七月十五日新潮社)、
「妻と子」
(明治四十四年十月十五日今古堂書店「新作文庫」)、
「生々ぬなか」
(下巻・大正二年五月一日、後編・五月十九日、合本・大正二年二月
十五日、縮冊一全二冊、前・九月二十五日、後・十月十八日金尾文淵
堂)、
「歩一步」(大正三年一月十八日新潮社)、
「疑(前編)」(大
正四年一月一日春陽堂)、
「銀の鍵・前編」(大正五年五月二十四日
新潮社)、
「ひこはえ」(大正七年四月跋、無刊記)、
「春葉全集」
(第一巻・大正八年十一月一日、第二巻・九年五月二十日金尾文淵
堂)、
「生々ぬなか」(昭和九年九月二十五日中央公論社「日本近世大
悲劇名作全集」)等。